

4号
(7月実施分)

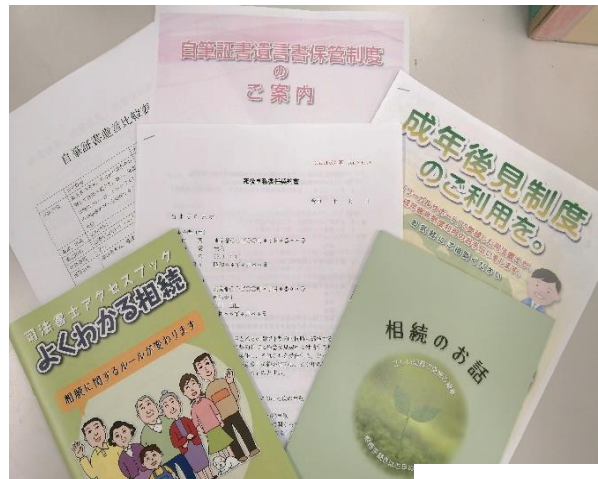
気になるくらしの目安箱通信

●7/26月の講座内容は…

最期の財産管理の知識として、遺言の作成時期や遺言書の種類や保管の仕方、死後事務委任等について、東京司法書士会所属の佐藤正幸司法書士にわかりやすく説明いただきました。

質問にも丁寧にお答えいただき、不安な気持ちも解消されたと好評でした。

財産を残したい方が自分よりも先に亡くなる場合もあるので、遺言では、2段階式の記載で(〇〇が亡くなった場合には●●に相続する等)きちんと自分の意思を伝えておくことが必要だという助言もいただきました。



講座資料

●「死後の供養の仕方や財産処分への思い」を エンディングノートにどう残すか検討

死後の葬儀、お墓、財産の処分について、どのように伝えておけばよいか、どのような内容で記載しておけばよいかを検討しました。

コロナの影響でそもそも葬儀をした方がよいのか、直葬への関心もあり、意見が交わされました。記載内容にも葬儀の実施についての選択肢も追加しました。



●6/28月の講座内容は…

厚生労働省のもしものときのために「人生会議」のビデオを視聴し、自らが望む人生の最終段階の医療・ケアについて考えてみました。前もって考え、周囲の信頼できる人たちと共有することが大切です。後半のエンディングノートの作成のヒントになるような内容でした

— いわゆる“終活”だけでは充分でないかもしれません —

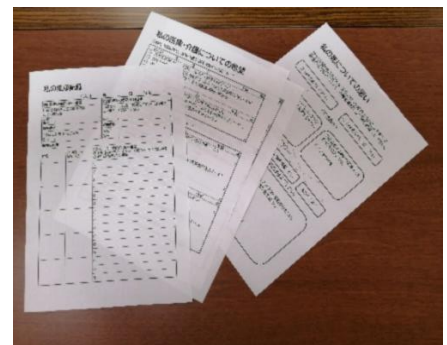


厚生労働省のHPより抜粋



●「医療・介護、死に対する思い」を エンディングノートにどう残すか検討

医療・介護が必要になった時に、「自分の健康状態、どこで生活し、誰に頼って、費用はどのように負担していくか」等、自分の希望が伝わるように記載するにはどうしたらよいか意見を出し合いました。余命告知や延命治療については、チャート形式にしたほうが分かりやすいとの意見がありました。講座も3回目になり、情報を知ること、皆さんからの疑問の声も出てくるようになりオリジナルならではのエンディングノートが完成するのではないかと楽しみです。



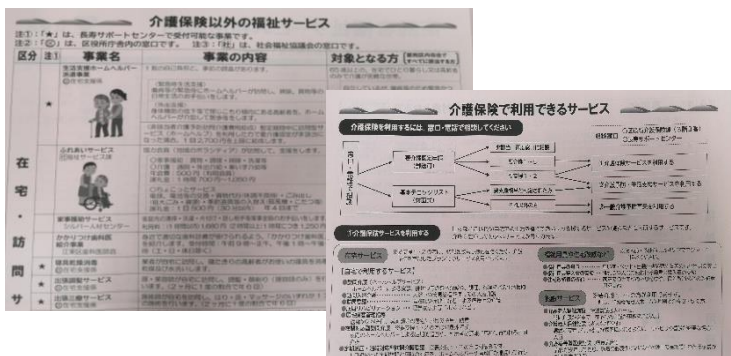
2号
(5月実施分)

気になるくらしの目安箱通信

●5/24日の講座内容は…

住み慣れた江東区で、生きがいを持って、自分らしく、安心して暮らしていくための情報提供講座で、大島西長寿サポートセンターの鈴木さんに、介護保険以外の福祉サービスと介護保険を利用した多様な自宅介護サービスについてお話していただきました。

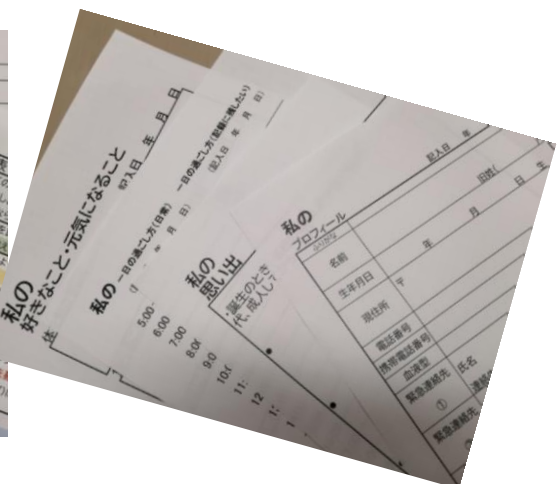
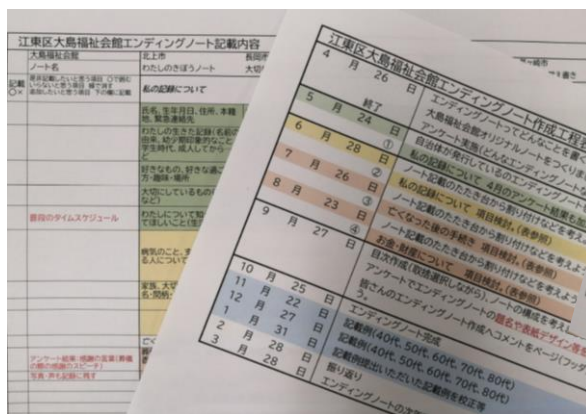
介護保険制度も20年を迎え、サービス内容も充実し、自宅介護は難しくなくなってきましたが、在宅でひとり介護や終末を迎える側の心構えが必要のようです。これからも、個人の不安や寂しさにも寄り添える福祉会館でありたいです。



大島西長寿サポートセンター
鈴木さん

●1年間の工程表に沿って、エンディングノートの形式を検討

オリジナルエンディングノートの工程では、私のこと→医療・看護・介護のこと→亡くなった後の手続き の順にノートの形式を皆さんと作り上げていきます。その後、エンディングノートの題名や表紙デザインを皆さんから募集します。



1号
(4月実施分)

気になるくらしの目安箱通信

●4/26月の講座内容は…

大島福祉会館で「気になるくらしの目安箱」を開催する目的と「くらしの困りごとの情報提供」&「大島福祉会館オリジナルエンディングノートの作成」講座の2柱についてお話ししました。

住み慣れた江東区で、生きがいを持って、自分らしく、安心して暮らしていただけるよう、少しでもお役に立てるような情報を発信していきます。

どうぞ1年間よろしくお願いいたします。



エンディングノート(終活ノート)作り



相談の専門機関リーフレット



●地域包括ケアシステムって…

医療や介護はもちろん衣食住も含む総合的なケアの仕組みを地域で作って、みんなが住み慣れた地域で生きがいを持って安心して暮らしていける仕組みのことです。

※4/21のこうとう区報にも掲載されています。



●エンディングノートって何を書くの？

最期に向け、家族に迷惑をかけないように記録を残すことだけが目的のように思いがちですが、自分がどういうことを考え葛藤しながら前向きに生きてきたかの記録や想いは残しておきたいものですね。その方の想いが医療や介護の参考にもなり、尊厳ある最期を迎えられるのではないのでしょうか。

講座の様子

